

令和5年漁期のズワイガニの水揚状況

資料提供	
令和6年4月5日	
担当課（担当者）	漁業調整課（野々村、清家）
電話	0857-26-7303、7315

1 概況

- (1) 今漁期（R5.11.6～R6.3.20）は、沖合底びき網漁船 23 隻が操業し、漁期中の延べ入港隻数は 719 隻（前年比 104%）だった。
- (2) 今漁期のズワイガニ漁は、水揚量が 491 トン（前年比 92%）で、TAC 消化率は 49.7%（前漁期 67.1%）となった。水揚金額は 2,582 百万円（前年比 84%）であり、単価は 5,253 円/kg（前年比 91%）だった。
- (3) 「松葉がに」は、水揚量が 189 トン（前年比 83%）で、水揚金額は 1,662 百万円（前年比 87%）だった。単価は 8,807 円/kg（前年比 105%）だった。
- (4) 「親がに」の水揚量は 276 トン（前年比 103%）で、水揚金額は 863 百万円（前年比 79%）となった。単価は 3,127 円/kg（前年比 77%）だった。
- (5) 「若松葉がに」の水揚量は 27 トン（前年比 67%）で、水揚金額は 57 百万円（前年比 75%）、単価は 2,135 円/kg（前年比 112%）だった。

2 集計結果（11月6日から3月20日までの累計）

漁協	漁船 隻数	延入港 隻数	松葉がに			親がに			若松葉がに			合計			
			数量 (kg)	金額 (千円)	単価 (円/kg)	数量 (kg)	金額 (千円)	単価 (円/kg)	数量 (kg)	金額 (千円)	単価 (円/kg)	数量 (kg)	金額 (千円)	単価 (円/kg)	
田後漁協	6	164	67,672	534,653	7,901	88,439	261,745	2,960	5,393	10,298	1,910	161,504	806,696	4,995	
鳥取県漁協	網代港支所	10	384	63,841	641,520	10,049	110,643	367,403	3,321	11,961	24,714	2,066	186,445	1,033,638	5,544
	賀露支所	4	88	24,381	211,659	8,681	35,736	114,659	3,209	6,513	16,449	2,526	66,630	342,768	5,144
	境港支所	3	83	32,782	273,889	8,355	41,072	118,853	2,894	3,034	5,975	1,970	76,887	398,717	5,186
合計	23	719	188,676	1,661,722	8,807	275,890	862,660	3,127	26,899	57,437	2,135	491,466	2,581,819	5,253	
前年同期	23	692	226,511	1,905,139	8,411	267,666	1,087,573	4,063	40,056	76,340	1,906	534,232	3,069,052	5,745	
対前年増減	0	27	△ 37,834	△ 243,417	396	8,225	△ 224,913	△ 936	△ 13,156	△ 18,903	229	△ 42,766	△ 487,234	△ 492	
前年比 (%)	100	104	83	87	105	103	79	77	67	75	112	92	84	91	

（表中の数字は小数点以下四捨五入しています）

3 「特選とっとり松葉がに五輝星」について 【 】内は前漁期

- (1) 水揚枚数 220 枚【272 枚】、水揚金額 15,066 千円【12,572 千円】、平均単価 68,482 円/枚【46,219 円/枚】、値幅 13,500～2,800,000 円【18,000～1,000,000 円】
※最高値 2,800,000 円を除いた平均単価 56,009 円/枚【最高値 1,000,000 円を除いた平均単価 42,699 円/枚】
- (2) 水揚げ枚数は過去最高だった昨年に次ぐ 2 番目の多さであった。多かった理由は、水産試験場が漁期前に行ったトロール調査から、松葉がにの推定資源量は、甲幅 12cm 以上の大型個体の資源量が、小型個体（10.5～12cm）を上回る結果となったこと等から、大型の五輝星サイズの松葉がにが水揚げされやすい状況になったと考えられる。※五輝星（甲幅 13.5cm 以上）のサイズに成長するのに約 10 年を要する。

4 まとめ

- (1) ズワイガニ漁の漁獲量は昨年の 92%とやや減少した。漁獲が減少した要因として漁獲サイズの松葉がに・若松葉がにの資源の低水準が続いていることが影響していると考えられる。一方で親がにの資源は回復傾向にあり漁獲量はやや増加した。水産試験場が漁期前に行った調査では漁獲サイズ前の小型のカニの資源が回復基調にあり、来漁期以降、小型の松葉がに、若松葉がにの漁獲も上向くことが期待される（漁業者の自主規制の強化が資源回復に繋がっていると推察）。
- (2) 水揚金額は 25.8 億円で過去 3 年間続いた 30 億円以上を下回ったものの、過去 5 番目の高水準となった。供給に対して需要が大きかったことなどが考えられる。